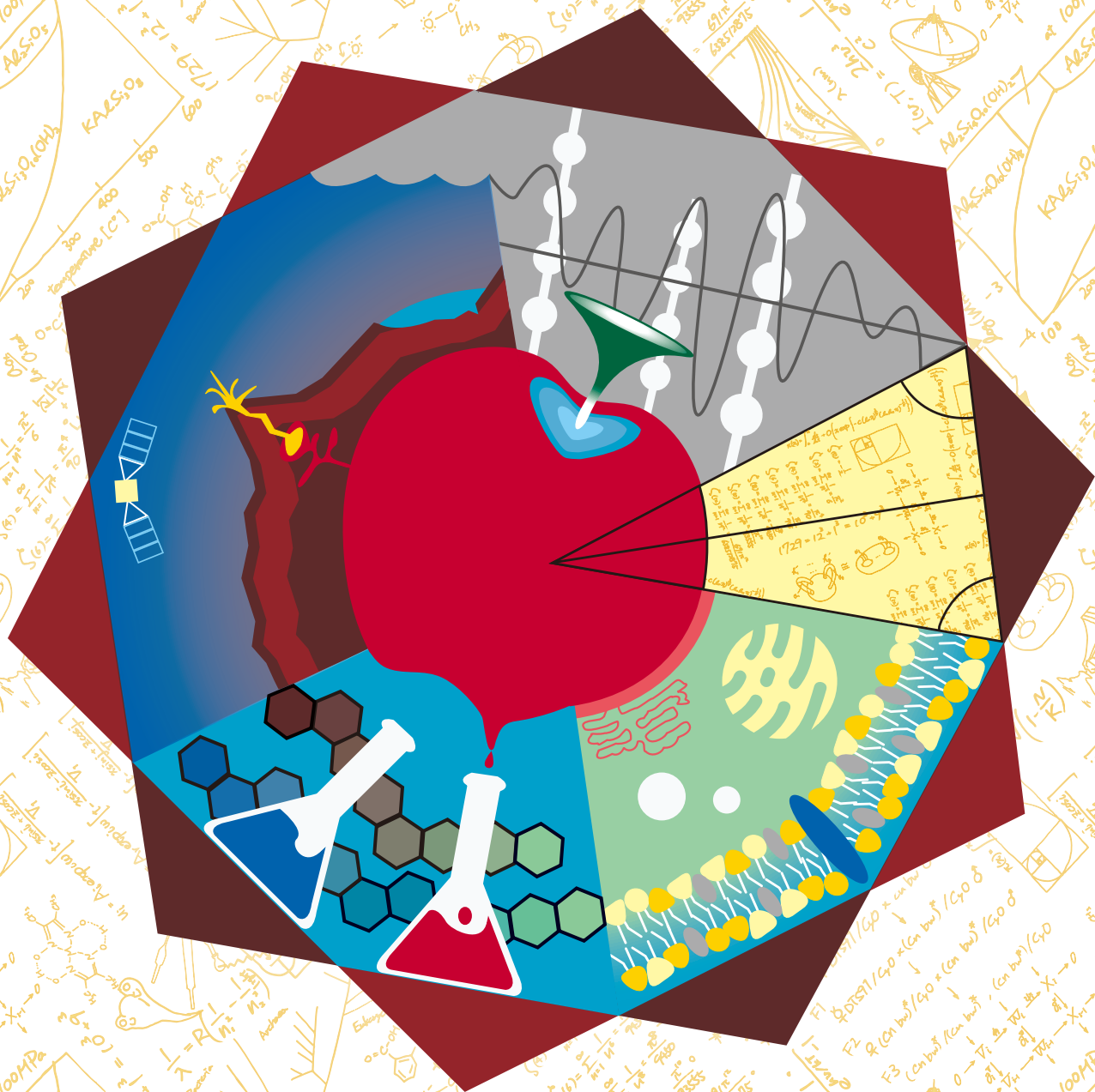


千葉大学  
理学部  
創立50周年  
記念



The 50<sup>th</sup> Anniversary  
of the Faculty of Science,  
Chiba University



CHIBA UNIVERSITY



## 50周年を迎えた千葉大学理学部に期待すること

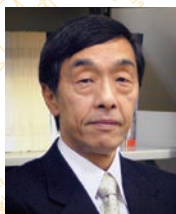
理学部長・理学研究院長  
柳 澤 章

千葉大学理学部は今年で創立50周年となります。1968年4月に数学科（現在の数学・情報数理学科）、物理学科、化学科、生物学科の4学科でスタートし、後に1974年4月に地学科（現在の地球科学科）が加わり、現在の5学科体制となりました。来年の2019年には千葉大学が創立70周年目を迎えますので、理学部は現在の10学部の中では比較的歴史の浅い学部と言えます。

この50周年という記念すべき年に、学部長として微力ながら貢献させて頂ける事に誇りを感じるとともに、これまでこの理学部の発展にご尽力頂いた教職員ならびに卒業生の皆さま、さらには理学部を温かく支えて下さっている保護者組織である理学部後援会の皆さまに心より感謝申し上げます。我が理学部のさらなる発展のためには、理学部の存在価値を一層高めるべく、常にその魅力を学内外に発信し続けなければなりません。

昨年4月に理学系と工学系の大学院が改組によって一体化され、融合理工学府が立ち上がりました。私たちは社会から期待されている千葉大卒の優秀な理工系人材の育成に向けて、工学系教職員と連携し、大学院先進科学プログラムを含めた融合理工学府の教育プログラムを着実に進めております。このプログラムの円滑な運営のためには大学院に繋がる理学部の教育プログラムをより充実したものにする必要があります。最近の大学改革の流れにおいて、他大学の理学部は学部・学科再編を余儀なくされていますが、我が理学部の場合は現在の5学科体制こそが、この融合理工学府に求められる理学系学生を育成できる教育体制であり、維持していく必要があると考えています。また、新たな研究組織として同じく昨年4月に誕生した理学研究院は、前身である理学研究科時代の研究方針を継承し、大学全体の機能強化戦略の1つであるグローバルプロミネント研究基幹に積極的に関与し、理学ならではの基礎研究の重要性をアピールし続けています。

来年は第三期中期目標・中期計画の4年目を迎え、千葉大学における機能強化の成果をより一層強く求められる段階に入りますが、理学部・理学研究院の構成員の方々のご尽力、ならびに保護者の皆さまや卒業生のご支援により、千葉大学の理学の魅力在世の中により強く発信する事ができ、我が理学部が未永く発展し続けることを大いに期待しております。



## 千葉大学理学部、50年の発展と未来への期待

千葉大学名誉教授・理学部長  
田 栗 正 章

千葉大学理学部が創設50周年を迎え、感慨もひとしおです。これまで理学部に関わられたすべての方々と共に、慶びを分かち合いたいと思います。

私が着任した1970年には、理学部は4学科で、各学科4講座編成の小さな学部でした。その後、学科・大学院研究科の改組・創立や教養部改組等により、理学部は組織的にも、教育研究の内容的にも、驚異的な進展を遂げました。私は、1998年に理学部長を拝命し、1年目の理学部長会議では、文理改組を行った15大学の会議に参加しましたが、2年目からは、旧六（医科大学を前身とした旧官立六大学の事で、千葉大、金沢大、岡山山、新潟大、熊本大、長崎大をさします）を中心とする8大学会議に参加することになりました。我が学部の急速な充実を注目を集め、数名の旧六の理学部長が当学部を訪問されました。

以上のような理学部の組織・内容の飛躍的な発展に伴い、施設や情報環境等もだんだんと整備されてきました。理学部2号館の新設時に、子供達の夢・科学の心を育むことを目指して、サイエンス・プロムナードを設立できたのは思い出深いことでした。また、他大学・他学部にも先駆けて本格的な自己点検・外部評価を行いました。理学部2号館前の桜の写真を用いた評価書の表紙の美しさは忘れることができません。国際交流や地域貢献の面でも、当理学部は指導的な役割を果たしてきたと自負しています。

しかし、2004年の国立大学の法人化以降、大学、とりわけ基礎科学を担う理学部は、様々な面で厳しい状況に立たされています。ICT・IoT・ビッグデータが喧伝されている今日の社会では、すぐに役立つことのみが求められ、一見役に立ちそうにない基礎科学は切り捨てられがちです。しかし、「役立ちそうに思えない」ことは、「価値がない」ことではなく、その審判は歴史に委ねるべきでしょう。千葉大学理学部では、高い見識に基づいて未来を見据え、理学のますますの発展に寄与されることを、心より期待しています。



昭和24年（1949年）5月の新制千葉大学設置に伴い、学芸学部（学芸部、教育部4年課程）が設置された。教育部の母体は千葉師範学校であったが、学芸部の母体は東京工業専門学校、千葉農業専門学校や師範学校の基礎教育関係であり、これが文理学部の母体であり、さらに理学部へと発展することになる。

昭和25年度より教育部は教育学部に、学芸部は茨城県安中にあった東京医科歯科大学大学予科を併合し文理学部に改組し、学芸学部は消滅した。発足当時の学芸学部は市場町の師範学校の建物にあった（現在の県立中央図書館や千葉県県文化会館のある場所）。25年文理学部になって小仲台町の千葉陸軍高射学校跡（千葉女子高校を含む一帯）に移った。文理学部は人文科学、社会科学、自然科学の3課程を持ち、あわせて全学部学生のための一般教養課程も担当していた。

昭和38年（1963年）夏、西千葉地区の東京大学生産技術研究所跡に移り、自然科学課程は、物理・化学が理学部1号館、数学・生物・地学が理学部4号館（旧3号館）、事務室分室・教室として理学部旧2号館へと移転した。

- 1968年 | (昭和43年) 文理学部を人文学部、理学部、教養部に改組した。  
理学部には数学科、物理学科、化学科、生物学科の4学科が置かれた。
- 1974年 | 地学科が増設され5学科となった。  
学内共同利用施設として極低温室が設置された。
- 1975年 | 大学院理学研究科（修士課程）が設置された。
- 1977年 | 理学部5号館（旧4号館）が完成、地学科の全部および生物学科の一部が移転した。
- 1980年 | 附属海洋生物環境解析施設が銚子に設置された。
- 1985年 | 東京水産大学水産学部小湊実験実習場が理学部に移管された。
- 1985年 | 附属海洋生物環境解析施設に銚子実験場が置かれた。
- 1987年 | 大学院理学研究科数理・物質科学専攻（後期3年博士課程）が設置された。
- 1988年 | 大学院自然科学研究科が設置された。  
大学院理学研究科数理・物質科学専攻（後期3年博士課程）が同研究科に移行した。
- 1989年 | 附属海洋生物環境解析施設が附属海洋生態系研究センターとなった。
- 1991年 | 自然科学研究棟1が新築された。
- 1994年 | 教養部廃止に伴う学科の改組を行う。  
数学科を数学・情報数学科に、地学科を地球科学科に名称変更した。
- 1994年 | 5学科23講座から5学科14大講座へ改組された。
- 1996年 | 大学院理学研究科（修士課程）が廃止され、大学院自然科学研究科に組み入れられた（入学定員を40名から113名に増やした）。
- 1998年 | 理学部3号館新築。  
千葉大学で飛び入学が始まる（物理学科：1999年、化学科：2010年、生物学科：2019年予定）。
- 1999年 | 附属海洋生態系研究センターが廃止転換され、学内共同利用教育研究施設として海洋バイオシステム研究センターとなった。
- 2001年 | 理学部2号館新築（サイエンスプロムナード設置）。  
極低温室が1号館東側に移動。
- 2004年 | 理学部1号館改修。
- 2006年 | 地球科学科が3講座から2講座に改組された。
- 2007年 | 理学部4号館（旧3号館）改修、理学部5号館（旧4号館）改修。  
大学院が自然科学研究科から独立し、理学研究科に改組された。
- 2010年 | 極低温室のヘリウム液化機を中心に大規模な設備更新を行った。
- 2012年 | 理学研究科附属ハドロン宇宙国際研究センターが設置された。
- 2017年 | 理学研究科、融合科学研究科、工学研究科が統合され、教育組織として大学院融合理工学府が、研究組織として大学院理学研究院、大学院工学研究院が設置された。

1968年に発足いたしました現在の千葉大学理学部ですが、今年で50周年を迎え、2017年度までに合計8,253名の卒業生を送り出すことができました。

年度	数 学		物 理		化 学		生 物		地 球		計
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	
1971 (S46)	23	3	21	1	20	7	12	2	-	-	89
1972 (S47)	24	5	27	1	27	1	13	4	-	-	102
1973 (S48)	33	4	34	0	30	7	19	0	-	-	127
1974 (S49)	31	2	28	0	27	6	17	5	-	-	116
1975 (S50)	28	4	36	1	24	4	13	3	-	-	113
1976 (S51)	26	5	21	0	30	5	17	3	-	-	107
1977 (S52)	28	6	38	2	20	6	16	4	18	1	139
1978 (S53)	34	1	31	2	29	10	17	6	32	0	162
1979 (S54)	29	2	39	0	20	10	13	2	33	3	151
1980 (S55)	33	3	15	1	25	10	12	6	31	5	141
1981 (S56)	32	3	33	3	22	9	14	7	38	2	163
1982 (S57)	29	3	38	3	28	8	16	2	29	5	161
1983 (S58)	38	2	34	2	26	8	17	5	32	3	167
1984 (S59)	33	2	31	2	22	9	13	7	27	3	149
1985 (S60)	25	7	25	4	20	12	16	4	25	11	149
1986 (S61)	32	5	37	0	26	9	10	8	28	5	160
1987 (S62)	24	6	30	3	21	12	16	4	20	5	141
1988 (S63)	30	2	30	4	21	5	13	6	23	6	140
1989 (H1)	23	9	33	0	31	6	15	4	29	5	155
1990 (H2)	32	3	34	1	31	10	11	6	33	7	168
1991 (H3)	33	2	36	2	28	5	18	8	25	10	167
1992 (H4)	31	4	31	2	32	9	11	13	31	6	170
1993 (H5)	28	5	34	4	27	10	20	5	34	5	172
1994 (H6)	37	4	39	1	30	10	22	11	36	9	199
1995 (H7)	34	3	37	2	31	9	22	13	37	10	198
1996 (H8)	35	6	39	2	24	9	24	14	33	11	197
1997 (H9)	28	7	25	8	30	10	16	22	40	17	203
1998 (H10)	35	9	31	2	35	9	20	12	36	8	197
1999 (H11)	41	9	42	2	30	15	26	8	31	17	221
2000 (H12)	37	4	44	5	24	13	24	12	33	13	209
2001 (H13)	42	5	47	1	22	16	18	13	26	14	204
2002 (H14)	40	6	30	1	28	15	23	11	35	17	206
2003 (H15)	40	9	39	3	29	11	20	18	30	12	211
2004 (H16)	34	8	38	4	29	8	22	15	41	10	209
2005 (H17)	37	8	42	3	23	20	20	13	36	9	211
2006 (H18)	36	8	41	4	27	17	20	12	35	13	213
2007 (H19)	37	6	44	5	22	15	19	18	33	15	214
2008 (H20)	36	4	33	2	31	6	21	16	35	15	199
2009 (H21)	39	6	40	3	31	13	19	11	35	15	212
2010 (H22)	43	8	39	6	32	12	24	11	31	15	221
2011 (H23)	35	3	37	2	27	12	24	9	31	11	191
2012 (H24)	43	1	35	7	25	12	25	13	35	15	211
2013 (H25)	41	4	31	5	35	8	19	17	32	10	202
2014 (H26)	35	4	36	2	29	13	29	12	31	9	200
2015 (H27)	41	5	32	3	34	14	21	16	38	12	216
2016 (H28)	38	5	36	5	27	10	25	17	38	8	209
2017 (H29)	36	4	32	4	37	8	20	12	32	6	191
計	1,579	224	1,605	120	1,279	463	862	440	1,308	373	8,253



〈文理学部時代（小仲台キャンパス）〉

理学部は第二次世界大戦の終戦（1945年）から間もない1949年の千葉大開学時に学芸学部として始まり、翌年に文理学部になる頃には千葉陸軍高射学校を転用した小仲台キャンパスで学べるようになりました（A1）。正門横の白い建物（A2）は照空予習室（敵機までの距離を測るの練習をする施設）で、書庫（附属図書館の前身）として利用しました。備品には陸軍から引き継いだものもあったそうです。

1956年頃



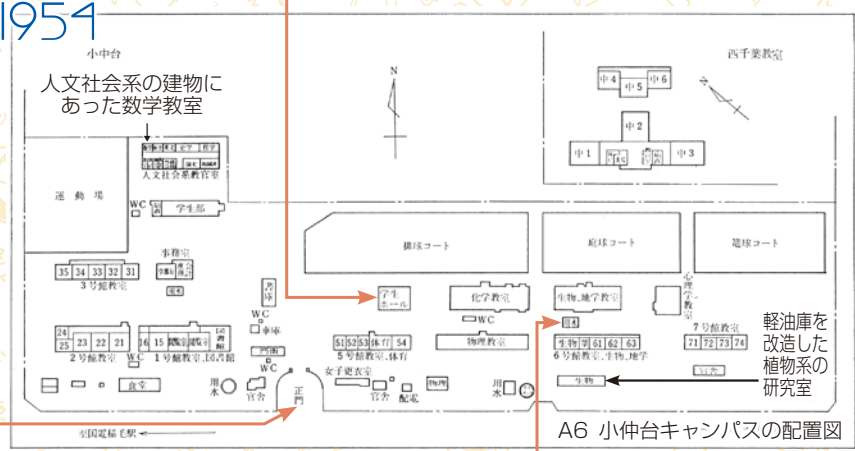
A1 文理学部の校舎と研究室

1951年頃



A2 千葉大文理学部正門

1954



A6 小仲台キャンパスの配置図

1951年頃



A3 生物学科の飼育用の池

1961



A5 小仲台キャンパス航空写真

1959



A4 物理学科 山口研究室

「中学時代を勤労働員として工場で過ごしていたので受験勉強も十分にできず、食糧事情も交通事情も悪かったので、地元で国立大学ができた事は都合が良かったです。6月まで授業が始まらない状態で、その後も千葉師範学校（中央図書館近辺）や千葉医科大学（亥鼻）で授業を受けるために移動していました。年末には小仲台キャンパスに移るために宝くじ（\*「千葉大学の歴史トリビア」参照）を売りに行ったりもしました。」（1949年生物）

「1962年に赴任して顕微鏡をのぞいていた西田研究室はかまぼこ型で天井の低い陸軍の軽油庫（6号館の南側）の跡でした。隣は渡邊清彦先生の研究室だったと思います。間もなく西千葉の3号館に研究室ごとリヤカーで引っ越ししました。」（生物学科栗田先生）



# Memories Through the Years

## 〈文理学部時代・理学部時代（西千葉キャンパス）〉

理学部棟は西千葉キャンパス内でも最初の方に作られた建物で（B5）、1963年に引っ越した当時は周囲に空き地や木造校舎が残っていました。

1962年頃



B1 建築中の西千葉キャンパス

1973



B2 理学部校舎

1970年代



B3 けやき通り

1979



B4 雪の理学部校舎

1966



B5 西千葉キャンパス

1937



B7 小湊実験場（移管前）

1991



B8 小湊実験場

1979



B6 西千葉キャンパス

1971



B9 西千葉駅

1983

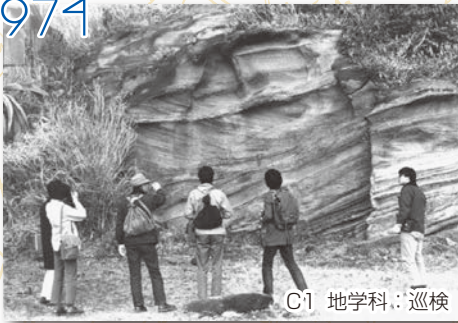


B10 西千葉駅

「当時の稲毛・西千葉とも未開の地で大学のキャンパスのイメージはなく、西千葉は東大生産技術研究所の木造校舎を使っていました。文理学部は稲毛で4年間を過ごし、他の学部の人達は専門課程では千葉市内や松戸市内に行くようになりました。」（1956年物理）



1974



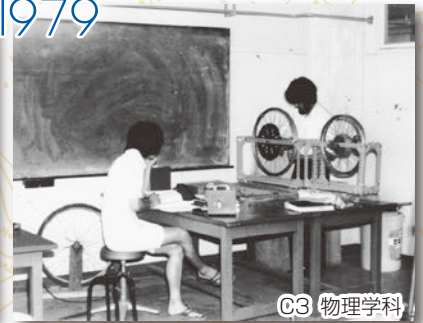
©1 地学科：巡検

1979



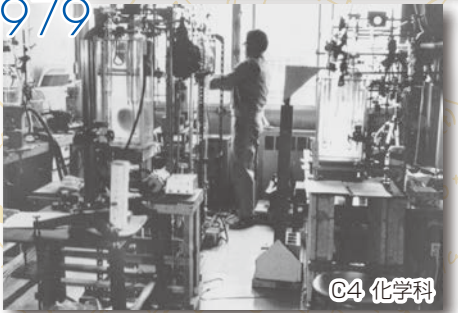
©2 数学科：足下に落ちているのはコンピューターの磁気テープのようです

1979



©3 物理学科

1979



©4 化学科

1986



©6 地学科：大巡検（秋吉台）

1979



©5 生物学科

1999



©7 建て替え前の1号館の入口

1999



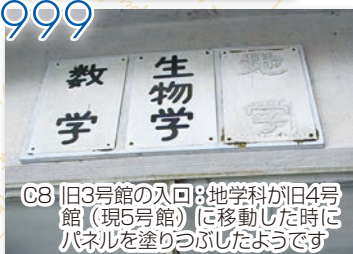
©9 旧3号館

1999



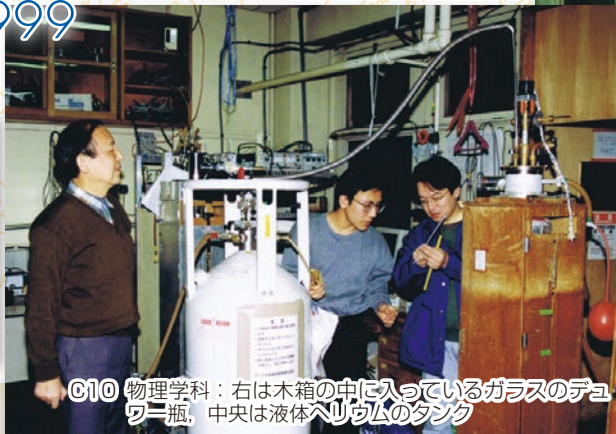
©11 物理学科：高温超伝導の試料作成

1999



©8 旧3号館の入口：地学科が旧4号館（現5号館）に移動した時にパネルを塗りつぶしたようです

1999



©10 物理学科：右は木箱の中に入っているガラスのデュワー瓶、中央は液体ヘリウムタンク

1999



©12 小湊実験場

1999



©13 化学科



©14 1983年から現在まで続いている生物学科の水族館

「小湊では玄関で靴を履くときは必ず靴の中を確認するように言われました。前の山からムカデが下りてきて、靴に入っていることがあるからと。でも臨海実習楽しかったです。」（1983年生物）  
 「当時の数学科は応用数学もなく、統計学以外はコンピューターとは縁のないところでした。紙と鉛筆もって議論するだけだったので、喫茶店などでやっていた記憶があります。」（1984年数学）  
 「入学した当時、学部の実験に使う機材は昭和初期の年号が入っていて、しかも「イ号」とか書いてあり相当古かったので「理学部お金ないのね」と思っていました。」（1987年物理）



## 〈理学部の建物の変遷〉

理学部の建物は少しずつ増築や改築が行われ、建物の番号が時期によって異なりますので、地球科学科図書室に展示されているパネル（1981年）で解説します。

**4号館**  
1977年当時は6階建てが珍しかったので「サンシャイン6」と呼ばれていました。当初は生物と地学が入り、2007年の改修後は5号館として地球科学科が使用しています

**3号館**  
生物と数学が使用していましたが、2007年に改築されて4号館になりマルチメディア教室や工作室が作られました

2号館の後ろには1998年に現在の3号館（化学・生物使用）が建てられましたが、新築当初は新1号館と呼ばれていました

**2号館**  
事務棟でしたが、2001年に新築され、数学情報数理・物理・先進科学が使用し、1階がサイエンスプロムナードになりました

**1号館**  
当初は物理・化学が利用し、2004年に改修されてからは事務と数学情報数理・物理が使用しています



桜は現2号館の入り口の左右に残っています

資料・情報提供（敬称略）（写真をお借りした場合は番号を右に記載）

千葉大学年史用資料（千葉大学附属図書館）・千葉大学卒業アルバム・理学部地球科学科図書室（以下に記載した以外の写真）  
千葉大学校友会 <http://www.chiba-u.ac.jp/general/alumni/alumni/index.html> (B3/C7/C8/C9)  
千葉大学の歴史トリビア（国際教養学部見城悌治）<http://www.chiba-u.ac.jp/general/history/history.html>  
千葉大学経済人倶楽部 [https://chibauniv-kizuna.jp/?page\\_id=18](https://chibauniv-kizuna.jp/?page_id=18) (B9)  
柏市教育委員会「空をつくる建物 高射砲第二連隊照空予習室調査報告書」2018・市原徹「千葉市小中台町850番地の歴史」2011  
葛飾区郷土と天文の博物館 <http://www.museum.city.katsushika.lg.jp/> (B7)  
千葉市市民局 市民自治推進部 広報広聴課 <http://www.library.city.chiba.jp/photo/pages/S50.html> (B10)  
国土地理院地図・空中写真閲覧サービス <http://mapps.gsi.go.jp/maplibSearch.do> (A5)  
金山行孝（1949年生物学科入学）(A2)・田中正信（1956年物理学科入学）(A4)・青木育雄（1949年物理学科着任、書簡）・大原隆（地学科名誉教授）(B4)・栗田子郎（生物学科名誉教授）・平野義明（1990年生物学科着任）(B8)

## ● 表紙イラスト・壁紙・ノベルティの制作者の紹介 ●

50周年記念イラストの公募で理学部の5つの学科の躍進が「理」を追求する様子を表した作品（理学研究院生物学コース修士2年生の中島由介さん）と、理学部生の閃きを表す電球の背景に理学部で扱われている理論や概念を手描きした壁紙を組合せた作品（理学部生物学科3年生の佐藤あやめさん）が採用されました。中島さんの作品は表紙と付箋紙に、佐藤さんの作品は記念誌の背景とクリアファイルに使わせていただいています。

千葉大学理学部50周年記念誌（2018年11月発行）

編集：千葉大学理学部創立50周年記念行事企画委員会

渚勝（委員長，数学・情報数理），筒井享（数学・情報数理），中山隆史（物理），工藤義広（化学），寺崎朝子（生物），古川登（地球科学）

〒263-8522 千葉市稲毛区弥生町1-33 043-290-2871 [chiba.science50@gmail.com](mailto:chiba.science50@gmail.com)

[http://www.s.chiba-u.ac.jp/pr/anniversary\\_50.html](http://www.s.chiba-u.ac.jp/pr/anniversary_50.html)

（理学部50周年の交流広場へのリンクや記念誌に入りきらなかった写真を掲載しています）

